

研究・調査報告書

報告書番号	担当
49	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳) Genetic differences in ethanol metabolizing enzymes and blood pressure in Japanese alcohol consumers 日本人飲酒者におけるエタノール代謝酵素の遺伝的相違と血圧	
執筆者 Y Yamada, F Sun, I Turitani, et al.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Journal of Human Hypertension 16: 479-486, 2002	
キーワード アセトアルデヒド、アルコール脱水素酵素、チトクローム P450-2E1、hepatic steatosis	
要 旨 <p>東洋人はエタノール代謝酵素において特長ある遺伝子多型を有している。アルコール代謝には、アルコール脱水素酵素-2 (ADH2) アルデヒド脱水素酵素-2 (ALDH2)、およびチトクローム P450-2E1(CYP2E1)の三つの酵素が関連している。日本人を対象にして、ALDH2 遺伝子多型が血圧に与える影響を検討した研究は3つある。そのうち、ALDH2 不活性群に飲酒による血圧上昇に対する感受性が高いとの研究が一つある。この不一致を探求するために、アルコール代謝に関する3つの酵素の遺伝子多型を調べ、血圧との関連を検討した。調査対象者は健康な855名の中年期日本人男性である。血圧は多量飲酒者において高かった。しかし、ADH、ALDH2の遺伝子多型においては、血圧値に差はなかった。多変量解析においても同様であったが、わずかに、CYP2E1のc2型を持った群は、血圧上昇におけるアルコールに対する感受性がやや高かった。以上の結果より、アルコール代謝にかかわる遺伝子多型は、血圧上昇において大きな影響を与えていないと結論できる。</p>	